講義名	フィールドワーク法				
科目区分	学部フリーゾーン				
担当教員	西牟田 真希				
開講期・曜日・時限	前期 金曜日 1時限		授業形態		
	2018年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツ健康コース／2018年度 人間社会学部 人間健康学科 健康マネジメントコース／2018年度 人間社会学部 人間健康学科／ 2018年度 人間社会学部 観光学科 ホテル・ブライダルコース／2018年度 人間社会学部 観光学科 観光事業コース／2018年度 人間社会学部 観光学科／				
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考	

主題と概要

この講義では、社会調査を行う際の必要な問いの立て方や調べ方を学び、そのための基本的な概念と方法を学ぶことを目的とする。フィールドワーク法では特に、フィールドワークの技法、参与観察法、聞き取り（インタビュー）調査、ドキュメント分析について、調査事例を中心に授業を進める。必要な知識と調査方法を習得したのち、実際に調査計画にそって調査を実施する。調査後に、調査結果を整理して分析・考察を行い、調査報告書を完成させることを目指す。

到達目標

質的調査の意義を理解して、フィールドワークの技法を習得する。
各自で調査を企画・立案して質的調査を体験したのち、調査報告書を執筆する。

提出課題

単元ごとに授業課題（平常レポート）を実施する。授業課題の各要素を最後にまとめなおして調査報告書（期末レポート）として提出する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

単元ごとの授業課題は、実施前に方法やポイントを説明して、実施後に解説を行う。

評価の基準

授業の取り組み姿勢・平常レポート（40%）、期末レポート（60%）により、総合的に評価する。

履修にあたっての注意・助言他

本講義の前に社会調査に関する授業を受講していなくても問題はないが、他の社会調査の科目をあわせて受講するのがのぞましい。

教科書

. 使用しない.

プリント資料及び参考文献

神本秀爾・岡本圭史編『マルチ・グラフト――人類学的感性を移植する』（集広舎、2020）。岸政彦・石岡丈昇・丸山里美編『質的社会調査の方法――他者の合理性の理解社会学』（有斐閣、2016）。箕浦康子編『フィールドワークの技法と実際――マイクロ・エスノグラフィー入門』（ミネルヴァ書房、1999）。

授業計画

1. 本講義の概要と進め方
2. 社会調査とは何か
3. 質的調査の実際（1）――参与観察
4. 質的調査の実際（2）――聞き取り調査
5. 質的調査の実際（3）――ドキュメント分析
6. 調査の立案・計画（1）
7. 調査の立案・計画（2）
8. 先行研究を読む（1）
9. 先行研究を読む（2）
10. 調査記録の方法と注意
11. 質的データの整理と分析（1）
12. 質的データの整理と分析（2）
13. 調査報告レポートの作成（1）
14. 調査報告レポートの作成（2）
15. 講義全体のまとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）
	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート
	エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション
○	カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業内容を参考にして、各自でテーマ設定を行う・・・30分～1時間程度
フィールドワーク調査の計画・予約などの準備をする・・・30分～1時間程度
フィールドワーク調査（参与観察・インタビュー）を行う・・・1～2時間程度
各自のテーマに関連する文献・資料を探して内容をまとめる・・・1～2時間程度

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

使用しない

実務経験の有無及び活用

無し

備考

授業の進行具合によって、前後のカリキュラムを流動的に変更する場合がある。